

中丸地区 村政懇談会

日 時：平成29年7月6日（木） 午後7時から午後8時40分まで

場 所：中丸コミュニティセンター 会議室

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，村長公室長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長，議会事務局長） 計10名
事務局（課長，課長補佐，係長，自治推進課職員2名） 計5名
自治会長（押延区，須和間区，舟石川中丸区，原子力機構長堀区，緑ヶ丘区，南台区，フローレスタ須和間区） 計7名
自治会連合会（事務員1名） 計1名

参加者：押延区6名，須和間区5名，舟石川中丸区14名，原子力機構長堀区1名，緑ヶ丘区8名，南台区6名，フローレスタ須和間区4名，その他53名 計97名

司会進行：南台区自治会長 三上修

総計120名

《次第》

開会のことば

1. 出席者紹介（自治会長並びに村執行部）
2. 中丸地区自治会長あいさつ
3. 村長挨拶並びに村政の説明
4. 質疑応答
5. 平成28年度要望に関する進捗状況に関する説明
6. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答
7. 質疑応答
8. 村政に関する意見交換会（自由質問）

閉会のことば

《記録》

【4. 村長挨拶並びに村政の説明に対する質疑】

南台区住民：東海駅は西口も東口も自転車利用が多い。自転車置き場を整備していただきたい。

村長：東海駅西口については，駅前の再整備で交番近くに確保する予定である。交通の動線が危険な部分があるので，スムーズな交通にしていく予定である。

中丸区住民：原子力の問題に関連して質問をする。村松地区で避難訓練を実施するということだが，それは良いことだと思う。先日も大洗で思わぬ事故があった。福島の甲状腺疾患も増えており，この地域にも目に見えない影響が出てもおかしくはない。

中丸地区 村政懇談会

議員は原子力推進派が多いかもしれないが、住民は必ずしもそうではないことを認識していただきたい。

村長：ひたちなかインターチェンジと東海スマートインターチェンジからの常磐道を使う2つの避難ルートを設定したため、村松地区と真崎地区を避難訓練の場所を選んでいる。今回はその2ルートの検証を行う。先日の大洗の原子力事故に関しては誠に遺憾であり、原子力機構より今後の対応方針を示してもらってから安全性に対して要請をしていく。

押延区住民：原子力政策について意見を述べる。現在、広域避難計画を進めているところであると思う。厳しい意見も出ると思うが、実際に計画を立てて、少しずつ改善していくことが大切である。原子力事故については事業所がいかにすみやかに国、地方自治体に連絡するかが一番大切である。しかし、報告が遅れていることがほとんどである。事故については過大に評価しても構わないと思うので、すぐに報告するべきである。事業所がしっかりと対応するように村長はじめ担当が指導してほしい。

村長：私は県の広域避難計画を策定する際の策定委員会の委員になっていたが、その際に県に対して同じ意見を述べた。事業所は事故が拡大しないようになんとか抑え込もうとするので、報告が遅れるのだと思う。その際、事業所で事故の報告を徹底するようお願いした。今後県へも働きかけをしていく。

【5. 平成28年度要望に関する進捗状況についての説明】

建設農政部長：駅東大通りから動燃通りまでの区間の供用開始及び交差点の安全対策について、平成29年3月31日に勝木田下の内線の一部と、動燃線の信号の供用開始をした。また、村道3184号線の整備についてだが、この区間は山林となっており、整備の必要性は高くないと考える。ただし、樹木が生い茂って道路にかかっている部分については地権者と協議し対応していく。また、空き家対策の進捗状況についてだが、平成28年度に東海村全域対象で実態調査を行ったところ、人が住んでいないと見られる家が207件抽出された。その後、専門家や民生委員などからなる空き家対策協議会を立ち上げ、適正な管理の促進をするために平成29年5月に東海村空き家対策計画を策定した。現在は空き家の所有者に通知をし、空き家かどうかの詳細を調査しているところである。その後は管理されていない空き家に対して、特定空き家の指定、助言、指導、勧告、命令、代執行までどのような対応ができるか協議していく。今後も地域に詳しい地元の方に情報提供をお願いしたい。また、去年危険だとして情報提供していただいていた空き家については所有者に説明し対応してもらった。また、押延の神社から村松地区へ抜ける道路整備については、実際に通行できるよう整備すると不法投棄や防犯の問題も出てくることなどから、現在のところ整備の必要性は低いと考えているが、今後も地域の方と協議していきたい。

中丸地区 村政懇談会

村民生活部長：昨年質問の中で、自治会への加入率が下がっていること、自治会に加入する人が減っていることが指摘された。中丸地区だけの問題ではなく、他の地区にも当てはまることだが、実際に高齢等を理由に自治会を脱退する人が増えてきている。新しく加入する人も減っている。昨年度は自治会連合会と2回協議したが、自治会加入率を上げるための特効薬のような対策はなかなかない。引き続き自治会連合会や単位自治会の自治会長と一緒に考えていきたい。

【7. 質疑応答（中丸地区自治会からの事前質問・要望に関する回答）】

押延区住民：東海駅のプラットホームの屋根の設置に関しては、強く要望していると言っているが、具体的にどのような文言で要望しているのか。話を聞いているとただのパフォーマンスではないのかと感じる。本当に実現させる気はあるのか。もっと積極的な申し入れを考える必要があるのではないか。また、ふるさと納税の返礼品に関する回答が情けない。返礼品の代わりに東海村おすすめセレクションというのがあると知っているが、返礼品で対応しなければ何の進歩もないと思う。もっと前向きに考え、力をいれてほしい。

村長公室長：東海駅のプラットホームの件はJR東日本水戸支社に対し、関係市町村と期成同盟会を結成して要望している。村としても2年後の国体の会場となる笠松運動公園に行くために東海駅を利用する人が増えると思うので、今後とも要望をしていきたい。

総務部長：おすすめセレクションは1つの大事な取組として実施している。返礼品に関する考え方は理解できるが、返礼品を安定供給できる体勢の構築等の問題があるが、意欲的事業者がいれば柔軟に対応したい。

押延区住民：前向きに対応してもらえれば安心である。先ほどの押延の道路の整備の話だが、整備してしまうと不法投棄が増えるというのはマイナスな考えだと思う。目的は不法投棄ではない。住民が前向きになれるような回答をしてほしい。

【8. 村政に関する意見交換会（自由質問）】

緑ヶ丘区住民：村内に太陽光発電の設備が増えている。元々ゴルフ場だった土地も広く設置されている。村ではそのような太陽光発電に関する事業を事前に把握しているのか。

建設農政部長：太陽光発電を事業者が設置する場合については、平成28年10月1日に茨城県でガイドラインが作成された。そのガイドラインの中で、出力50キロワット以上の事業用については市町村への事前協議、地域への説明、意見聴取による着工、設置後の維持管理等をするようになっている。事前協議の段階では把握できるが、

中丸地区 村政懇談会

許可制ではない。

緑ヶ丘区住民：必要があれば住民に説明となっているが、ある程度村でフィルターをかけなければ一方通行でどんどんできてしまう。安全面など検討してほしい。

建設農政部長：市町村には事前に事業計画を提出することになっている。その中で安全性など確認したい。地域への対応については、自治会長等を交えて説明会を実施することになる。村でもしっかり確認したい。

南台区住民：南台では高齢化が進んでおり、高齢化率は約50%となっている。その中で、運転免許証の返納の話が近年出てきている。村として高齢者が自発的に運転免許証を返納できるような優遇措置の政策はあるのか。現在政策がない場合は今後どのようにしていくか決まっているのか。現在、南台を経由するバスは駅までは行けるが、駅から先の公共施設であるなごみや役場へは歩いていくしかない。タクシーに乗るとお金はかかるし、歩いていくのには危険性がある。バスが公共施設に行くルートを作してほしい。民生委員として地域を回るとそのような意見が多い。

村民生活部長：運転免許証返納については現在のところインセンティブを作れていない。運転免許証を返納するとバスのチケットをもらえたりするなど、村としても年度内にインセンティブを考えたい。補正予算で年度内に対応したいと考えている。

村長公室長：南台を通るバスに関しては東海駅周辺を巡回しているのでルートを確認してほしい。東海村の公共交通として、バス以外にデマンドタクシーがあり、30分間隔で運行しているので活用してほしい。

南台区住民：新しいルートは作れないということか。

村長公室長：村内の路線バスは3路線あり、利用者は前年度に比べて伸びがある。今後も住民の意見を踏まえながら検討はしていく。

南台区住民：役場に行くためにはデマンドタクシーを使えということか。デマンドタクシーは予約したら必ず乗れるのか。地域の人からデマンドタクシーに関する苦情もきている。予約して来てもらうデマンドタクシーではなく、バスによって自動的に役場やその他の公共施設に行くルートを作してほしい。

村長：現在村内を走っているのは茨城交通の路線バスである。自治体独自のコミュニティバスなら村でルート設定できるが、茨城交通の路線バスを現在の駅東だけのルートから駅西まで拡大し、線路を超えて行くようなルートを新たに作ることは簡単なことではない。また、現在の路線バスを走らせながら、自治体独自のコミュニティバスを走らせ、デマンドタクシーも走らせることになると経費的に厳しい。気持ちは分かるが、今すぐにできるとは答えられない。しかし、住民からのニーズが上がっていることは事実であるからその都度検討していく。また、バスについては利用者が多ければいいが、少ないと運営が難しい。

南台区住民：南台ではあと5年経つとおよそ6割の人は80歳を超える。バスの利用

中丸地区 村政懇談会

者はどんどん増えていくはずである。大きいバスでなく、小さいものでいいのではないか。大手のバス会社にこだわることはないと思うので検討してほしい。

村長：村としても公共交通の検討委員会を開き、話し合いをしている。しかし、すぐにはできない。検討が必要である。路線バスに関しても有効に使えるものは使いたいと考えている。自治体でバスを運営するとなると100%経費負担があるが、現在茨城交通が走らせている路線バスであれば経費を抑えられるというメリットがある。いずれにしても利用者にとってどんなものが必要なのか、デマンドタクシーとの兼ね合いはどうか常に考えている。気持ちは分かるので検討を急ぐが、ここで今すぐやるとは言えない。

須和間区住民：近所で肥料作りをしているところがあり、肥料の臭いが不快である。近くには幼稚園や小学校もあり、問題だと思う。そのような肥料作りは人家が無いところでやっていただきたい。村にとって農業は大切かもしれないが、周りの人の生活を犠牲にしてまで作ってほしくない。また、須和間北から石井歯科の方まで抜ける道路に通学のための歩道を作ってもらったのだが、雨の日は畑からの土が流れ込み、滑るような状態になっている。このままだと通学している子どもたちは車道に出て歩かないといけない。道路側に土が飛ぶと草も生える。飛んできた土については誰の所有になるか分からないが、取り除いてほしい。最後に、床屋の反対側の草が側溝の上まで伸びている。時々誰かが除草剤をかけていたりするのだが、すぐに伸びてしまう。信号の間近であるのでしっかり整備してほしい。通学や通勤として使う道路なので改善してほしい。

村民生活部長：肥料作りについては、農家が個人で行っているものと、事業者がハウスで行っているものがある。事業者がハウスで作っているものについては、6月に村から改善するように伝えているが、改めて担当から事業者に申し入れるようにする。

建設農政部長：道路に出てきた土埃については誰が所有というものはないが、強風が吹いたときに道路側に流れるという現状があるので、すみやかに村で撤去したい。私道に関しては所有者の管理になるので、場合によっては村から手紙を出して注意するなど対応したい。

須和間区住民：村には現場検証してもらい、結果を知りたい。手紙を送っただけでは効果はあまりないと思うのでしっかりやってほしい。

建設農政部長：今の時期は村道にかなり土埃が出ている。しっかり対応したい。

押延区住民：川崎教育長に歴史と未来の交流館について聞きたい。この施設は小中学生、大学生から大人まで様々な人が利用する施設になると思う。ボランティアをしている人を活用して多くの人ができるような施設にしてほしい。

教育長：そのような施設を作りたいと考えている。現在、県立博物館の歴史館におい

中丸地区 村政懇談会

て、東海高校の初代校長であった藤田稔先生の見た世界の展示があるのでぜひ見に行つてほしい。藤田先生が仰っているのは、「先人たちが培ってきた生活文化を保存して伝えていくことにより、現代人がエネルギーもらえる」ということである。歴史と未来の交流館もそのような資料館にしたい。交流館には子どもたちだけでなく大人も来館してもらい、地域の人が様々なことを説明してくれる、人と人との関わりがたくさんあるような場所にしたい。東海村の歴史や文化を学べる施設にしたい。

押延区住民：自己満足しないでやってほしい。

中丸区住民：今年度の村長の最重点施策のポイント1に「子育てに優しいまち」の実現とある。その中で、「保育所や学童クラブの受け入れ環境を整備し、待機児童の解消へとつなげる」とあるが、現在どのような具体的な問題があると理解していて、それに対してどのような改革をしていこうと考えているのか。

福祉部長：まず保育所に関してだが、村内の公立、私立いずれかの保育所を希望していて入れないという定義の待機児童は6月現在で1名である。一方、いくつかの保育所を特定していて、その希望の保育所に入れないというケースは40～50人いる。学童クラブについては、村内に公設のものが6つあり、1つは保護者の会に運営してもらい、残りの5つは民間に指定管理している。保育所に関する解消点として、民間のこども園などの受け入れ枠を増やしてもらえるように調整していく方向である。学童に関しては、現在のところ舟石川小や白方小でオーバーしている人数をバスにより照沼小へ輸送することにより対応している。

中丸区住民：学童に関してお願いがある。兄弟で同じ学童に入れないと家庭の負担になるので、今後その部分について解消してほしい。村の意見を聞く限りでは具体的な対策がないように感じるので、具体的に進めてほしい。

福祉部長：兄弟で同じ学童クラブに入れるようにというお願いだが、学童の受け入れがいっぱいになった際、保育所と同じように家庭の事情などを鑑みながら選定が必要になる。できるだけ希望に添えるようにしていきたいが、やむを得ない場合は了承していただきたい。

緑ヶ丘区住民：絆の裏に現在は草が生い茂っているが、今後は調整池になるという予定だということを聞いている。現時点での計画がどのようになっているか聞きたい。また、その場所には貴重な植物があるのでその保護をお願いしたいのと、セメントで固めてほしくないというのがある。自然を生かした調整池にしてほしい。

建設農政部長：絆の北側については環境保全に取り組んでいる。調整池の整備については浸水等に考慮しながら考えたい。貴重な自然が残っているのは把握しているので、残せるものは残していきたい。調整池の深さについても深すぎると人が立ち寄れないということもあるので、なるべく現地盤を残したい。雨水排水の調整池になり、都市

中丸地区 村政懇談会

排水路については今年度下水道課で計画を立てる予定であるので、今年度中には方向性を出したい。

村民生活部長：絆北側の環境全体について答える。雨水の調整池については整備に何年かはかかる。動燃線に近い方から環境整備していくことになるが、ここについてはみなさんと一緒にはじめていきたい。先日も外来生物の撤去をみなさんと一緒に実施したので、そのような活動を引き続き進めていきたい。整備というものにも様々なものがあると思うので、一緒になって考えることが大切だと思うので協力をお願いしたい。

以上